

# 東風見聞録

平成19年5月発行 通巻第19号  
イストウインド ヲロタクシヨシ 田中正人 竹内靖恵  
群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢六三七 M二二

## YMFSSスポーツチャレンジ 助成事業で100万円

ヤマハ発動機スポーツ振興財団が行う「YMFSSスポーツチャレンジ助成事業」で、チームイストウインドが平成19年度1期生としての選考を通過。今年4月から来年の3月までの活動において100万円を助成して頂くことが決まった。

この助成金事業は、スポーツを通じて世界に翔たくましい人材を育成する事を目的とし、自己の夢の実現にチャレンジする個人やグループの情熱を応援している。

今回は191通の応募から、スポーツチャレンジ体験助成通過は15件。イストウインドはその活動意欲を評価された。

「第1期生に選ばれたことはとても光栄なことであり、我々の活動を応援していただけに感謝の気持ちでいっぱいです」と田中正人。

助成金は国内レースの参加費用、またトレーニング生たちとの練習費用に充てていく。



4月24日(火)は授与式が開催され、代表として田中正人が出席した。(写真提供:玄株)

## とれとれ

### レイド・オブシディアン

5月2日〜5日「とれとれレイド・オブシディアン」が開催された。本大会はとれとれバイクシリーズの最終戦で、三重県をスタートし、岐阜、滋賀を通過して福井県まで、全行程4日間という長距離のマウンテンバイクレースである。1日毎の結果を累積し、4日間の合計が最も速い選手が優勝となる。このレースには地図読みもあるので、脚力だけの勝負ではなく、読図力も必要になる。

参加者は30名。チームイストウインドから田中正人、田中陽希、山北道智が参戦(小池賢は体の故障のため欠場)。正人はとれとれシリーズ戦で優勝をした経験もあるが、4日間続く最終戦は初参戦。陽希・山北はとれとれ初挑戦。しかも地図を読みながらのマウンテンバイクレースは未経験だ。



山北道智(20)は、今回が「とれとれはいく」初挑戦となる(撮影:竹内靖恵)

## 〔1日目〕

初日は三重県桑名市、岐阜県関ヶ原が舞台。田中正人はスタートからトップ集団で優勝争いに君臨。結果、強豪選手と同着1位。今後は面白くなりそう

だ。田中陽希は緊張から気持ちに余裕がなく、レース中にコンパスを落としたりと細かいミスを出す。しかし持ち前の力強さでレースを維持し11位。

山北道智は前日に葬式があり、高知県よりレース現地に直行したため急遽装備をホームセンターで調達。準備が完全ではない状態での参戦となった。山北もコンパスを落とすなどのミスがあったものの、登りで巻き返し8位に就く。

## 〔2日目〕

2日目は岐阜県関ヶ原、滋賀県長浜が舞台。距離はそれほどないのだが、最難関はナビゲーションである。ナビゲーションの難しさも「とれとれ特有」の面白さだ。

ナビゲーションを得意とする正人は、細かいミスはしたものの、逃げ切って首位をキープ。

陽希は前日の疲れが出始めたが、強い体力でなんとか食い下がりがり8位。前日より追い上げた。

調子が良かった山北は登りで3位まで上がったが、中盤で大きく口ストし、地図外に出てしまった。道を探している間に20人も選手に抜かれ、精神的に打撃を受ける。そこからは石が転がるような速さで調子がダウン。だが時間制限まで何とか順路に復活。そこからはナビに厳重に気を使い、ぎりぎりゴールしたものの22位までに転落。

## 〔3日目〕

滋賀県長浜、滋賀県余呉が舞台。琵琶湖が一望できる山々にも行く。

正人に疲れが見え始める。今日はナビよりもアツプダウンのスキルが要求される。脚力・スキルが共に強い常勝選手に差をつけられて、3位。

陽希は体力が回復し、すこぶる快調。大きなミスもなく、レースに余裕が出た。元々力のある選手ゆえに、こうなると強い。登りでごぼう抜きし、5位。常連選手に「末恐ろしい選手だ」と言われた。

先日のナビミスで木っ端微塵となった山北。ナビゲーションに慎重になり、何度も立ち止まっては整置(コンパスでの方向確認)をしたため、スピードは出なかつたが、大きなミスもなく、14位。読図を理解し始め、山北にとっては大成長のきつかけとなった。



2日目に調子を崩した田中陽希(23)だが、持ち前の体力で上位に食い込む。(撮影:竹内靖恵)

〔4日目〕

滋賀県余呉湖、福井県若狭湾が舞台。現在、総合首位をキープしている正人は次位と24分差。兩名が優勝できる時間差内にいる。この日のコースは下りが多いため、高度なバイクスキルを持つ選手は有利に見える。

最終日になり、やっと「とれとれ」の面白さが分り始めた陽希。体調も良く、なんとか挽回したい。その意気込みで飛ばしていた陽希は、田中と一緒にトップ集団にいた。しかし下りで転倒し、シフターを破損して進めなくなる。そこに通りがかった選手が困っている陽希に手を貸した。「とれとれ」の温かさが出る一幕だ。

3日目の地図読みがうまくいき、山北は最終日のナビゲーションにワクワクしていた。地図読みの楽しさを肌で感じたようだ。山北も途中でチェーンが切れてしまい、「もうおしまいか!」と思った矢先、後続の選手に助けられ、レースを続行し、なんとか完走できた。

この大会を通して、「あきらめない自分が確立された」と陽希。「次はもっと速く地図が読めるようになりたい」と新しい分野を発見した山北。

得た事の多い4日間であった。

総合順位

- 田中正人 優勝
- 田中陽希 7位
- 山北道智 11位



右写真提供：高梨雅幸

下撮影：竹内靖恵



日赤救急救命法の基礎講習会

5月8日(火)イーストウインドのトレーニング生3名、カッパクラブ新人3名、田中正人、竹内靖恵の8名で日本赤十字社・群馬県支部主催の救急法の基礎講習会に参加した。

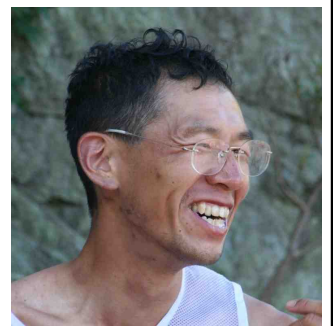
今回はアウトドラスポーツなどで起こり得る事故に備え、人工呼吸や心臓マッサージの方法を学習。またAED(自動体外式除細動器)をダミーに装着した心肺蘇生などの疑似練習も行った。

昨今のリパースポーツやマラソン大会でも、一時心肺機能停止の事故が起きている。そうした大会やツアーの主催者は、少なくともAEDを所持し、その正しい使用法を習得し、万が一に備えなければならぬ。



撮影：竹内靖恵

昨年のトランスジャパン・アルプスレースで脅威の快進撃を果たした高橋香氏が、5月12日(土)に開催されたJapan Cup Tokyo Training 100チャレンジャーズ・レースに出場中心臓麻痺で倒れ、同参加者の懸命な救助も届かずお亡くなりになった。享年40。あまりにも突然であまりにも早すぎるお別れとなってしまう。



トレイルランナー 高橋香さん(40) 逝去

世界を目指して

エクストリームシリーズ奥多摩大会 イーストウインド初参戦で優勝!

5月12日(土)エクストリームシリーズ奥多摩大会が開催された。会場は65チーム(1チーム3人)が集結。初参加のチームも多く、アドベンチャーレースの盛り上がりを感じる。

この大会に、チームイーストウインドも参戦。トレーニング生にとってアドベンチャーレースはこれが初挑戦となる。ちなみに田中正人もエクストリームシリーズは初参加だ。

メンバーは田中正人、小池賢、田中陽希。この日、調子を崩していた陽希が中盤からベースダウン。田中と小池に引つ張られ、何とか踏ん張った甲斐あり、2位と1時間もの大差をつけて優勝を果たした。山北道智は、当日欠員が出たチーム・デザートローズに急遽加わったの参戦。総合9位(カテゴリー2位)にランクインを果たした。



撮影：竹内靖恵

# Sue's Bar

## 高野 隆 (51)

東京都生まれ。学生寮の管理・運営。アドベンチャーレース界でも年齢は上の方だが、体力も気力も衰えず、国内最高峰「伊豆アドベンチャーレース」でチームデザートローズで出場し、好成績を収める。妻、娘2人と三鷹市に暮らす。

チーム内で自分が不得意とする部分があり、それをメンバー同士で補い合いました。きついマウンテンバイクの登りが不得意な僕をチームメンバーが助けてくれて、カヤックでは僕がフオローするつもりで、とてもバラムンズが取れたチームなんです。



チームに迷惑は掛けたくないと思いますが、迷惑を掛けるのもアドベンチャーレースの醍醐味です。壁ではありませんが、壁から

10年前に糖尿病と診断されたそうですが、はい、その頃は暴飲暴食、不摂生な生活などがたり、体重は百キロ、ウエストも百センチありました。顔がうつ血した感じで、「こりや何とかしないと長生きしない」と思い、少しずつ歩き、それからランニングをし、体力をつけていきました。今では毎日10キロ走って2キロ泳いでいます。

アドベンチャーレースを始めたきっかけは？ トレーニングをし始めて、ある程度の体力がついたので、99年に開催されたAdventure of the Training Camp ( ) に参加し、岐阜大会への参戦を目指したのですが選考漏れ。悔しかったですね。そこでトレーニングを積み、翌年の北海道大会に出場したのが初レースでした。

そして2002年に伊豆アドベンチャーレースに出場したんですね。はい。初出場で5位に入賞しました。チームワークが良かったんですね。



( ) X-Adventureのトレーニングキャンプ  
アドベンチャーレースの火付け役となったレースの事前講習会。チームイーストウインドが講師を勤めた。

アドベンチャーレースはチームワークは必須ですね。レース中はケンカもするけど、それぞれが互いを理解をしているし、やつぱりみんなレースが好きなんです。現在のアドベンチャーレースは30代世代が最も多いのですが、話が合わない事はありませんか？

話が合わないとか、年齢差とかはまったく感じませんね。スピードだけを要する競技であれば感じるかもしれませんが、アドベンチャーレースは地図読みもあるから考えて行動しなければならぬ。逆にそれで自分の存在も生まれているんです。

今後の高野さんの挑戦は？

アドベンチャーレースに拘らず、色々な分野に挑戦したいですね。50歳を過ぎた区切りとしてトライアスロンをやってみたい。宮古島トライアスロンに出場してみたいですね。

60歳の時の高野さんは何をしたいと思えますか？

うーん、走り続け、泳ぎ続けているでしょうね。自分の何が見つかるまで、やり続けたい。「今までやってきて良かったな」と思うまでやり続けます。自分のスポーツには引退はないですね。

## イーストウインド 最新メディア情報



ランナーズ 6月号  
(ランナーズ)

ランナーたちの間で最も人気の高い雑誌「ランナーズ」の6月号はトレイルラン特集。トレイルランに有効なグッズなどをその道のプロたちが語る。その中でイーストウインドは、知ってトクするトレイルランに最適な時計の使用法について語っている。  
(4月20日発売)



山と溪谷 5月号  
(山と溪谷社)

山での遭難事故は、「滑落」「転落」が要因と言われるが、実は最も多いのは「道迷い」だ。(平成17年警察庁発表) 従ってナビゲーション技術を身につける事は、事故を未然に防ぐ対策にもなる。今回の田中正人の連載はナビゲーションの重要性について。  
(5月15日発売)



アドベンチャー  
スポーツマガジン  
2007  
(山と溪谷社)

年に一度発売されるアドベンチャーレースのムック本。巻頭では昨年11月にチームイーストウインドが出演したプライマル・クエストが掲載！ 同行カメラマンの柏倉陽介氏の映し出した極限の世界は見応えたっぷり。  
(5月19日発売)